

# 京都府生協連ニュース

<第66回通常総会特集>

2019年8月7日・No.90(通算156号)

京都府生活協同組合連合会

京都市中京区烏丸通二条上る蒔絵屋町258番地

コープ御所南ビル4階

TEL. 075-251-1551

FAX. 075-251-1555

## 第66回通常総会開催

～全議案を満場一致で可決～

6月11日(火)、コープ.イン.京都で開催



<ご来賓からご祝辞をいただきました>



開会のあいさつをする  
上掛 利博会長理事



京都府西脇隆俊知事代理  
府民環境部 大谷 学部長



京都労働者福祉協議会  
廣岡 和晃会長

# 京都府生協連第66回通常総会報告

6月11日(火)午後1時30分から、コープ.イン. 京都で、京都府生活協同組合連合会第66回通常総会を開催しました。総会の代議員総数は45人で、本人出席33人、書面出席12人でした。来賓および理事・監事・オブザーバーあわせて、82人が参加しました。畑忠男副会長理事による開会宣言のあと、上掛利博会長理事が開会のあいさつをのべ、ご来賓の京都府府民環境部・大谷学部長(京都府西脇隆俊知事代理)、京都労働者福祉協議会・廣岡和晃会長から、ご祝辞をいただきました。オブザーバーとして、日本生協連関西地連・事務局 増永遥介氏はじめ、8人が参加しました。

地元選出の国会議員、各関係団体、各生協などから84通の祝電・メッセージがよせられたことを九鬼事務局長が紹介しました。高取淳専務理事が第1号～第4号議案を提案し、長誠一郎特定監事が監査報告をおこないました。代議員・理事から8件の発言があり、高取淳専務理事が討論のまとめをおこないました。提案した議案のすべてが満場一致の賛成で可決されました。総会后に第1回の理事会、監事会が開催され、会長理事に上掛利博氏、副会長理事に畑忠男氏、同・中島達弥氏、専務理事に高取淳氏、特定監事に長誠一郎氏が就任しました。



開会宣言をする  
畑 忠男副会長理事



議案提案をする  
高取 淳専務理事



監査報告をする  
長誠一郎特定監事

## ■祝電・メッセージをお寄せいただいた方々<順不同・敬称略6月11日現在>

衆議院議員 安藤裕	衆議院議員 泉ケンタ	衆議院議員 こくた恵二
衆議院議員 しげもと護	衆議院議員 竹内譲	衆議院議員 本田太郎
衆議院議員 前原誠司	衆議院議員 山井和則	参議院議員 井上さとし
参議院議員 倉林明子	参議院議員 二之湯智	参議院議員 福山哲郎
京都市長 門川大作	京都府議会議長 田中英夫	京都府社会福祉協議会会長 位高光司
京都市社会福祉協議会会長 村井信夫	京都商工会議所会頭 立石義雄	京都府農業協同組合中央会会長 中川泰宏
京都府森林組合連合会代表理事会長 青合幹夫	京都府漁業協同組合代表理事組合長 西川順之輔	

## ■全議案が満場一致で可決されました

議案	賛成	反対	保留	合計
第1号議案 2018年度活動報告・決算関係書類等承認の件	44	0	0	44
第2号議案 2019年度活動方針・活動計画および予算決定の件	44	0	0	44
第3号議案 2019年度役員選任の件	44	0	0	44
第4号議案 2019年度役員報酬決定の件	44	0	0	44

※出席代議員は合計45人（本人出席33 書面出席12）、うち議長1人は採決に参加せず。

### 【京都府生協連 2019年度役員体制】（8月7日現在） \*新任

＜会長理事＞ 上掛 利博（員外）	大島 芳和（京都生協専務理事）*
	川村 幸子（京都生協副理事長）
＜副会長理事＞ 畑 忠男（京都生協理事長）	酒井 克彦（立命館大学生協専務理事）
中島 達弥（京大大学生協専務理事）	坂本 真有美（生協コープ自然派京都理事長）
	清水 泰治（京都医療生協専務理事）
＜専務理事＞ 高取 淳（員外）	高杉 綾子（生協生活クラブ京都エル・コープ理事）*
	藤井 博史（京都工芸繊維大学生協常務理事）
＜常任理事＞ 本多 浩（京都府庁生協専務理事）	堂本 吉次（やましろ健康医療生協専務理事）
田中 とみ子（乙訓医療生協専務理事）	山本 克彦（全京都勤労者共済生協専務理事）
中森 一郎（大学生協事業連合常務理事）*	＜特定監事＞ 長 誠一郎（乙訓医療生協監事）
＜理事＞ 石澤 春彦（京都高齢者生協くらしコープ専務理事）	＜監事＞ 河野 直（京都生協常勤監事）*
岡田 照雄（京都市民共済生協専務理事）	林 章司（京都府医大府立大生協専務理事）

### 【理事・監事を退任されたみなさん】（順不同）

- ＜理事＞上総 紫香子さん  
 ＜監事＞石井 聡さん

### 【事務局】

事務局長 九鬼 隆一      事務局担当 川端 浩子      事務局担当 岡本 朋子

### 会 員 生 協

京都生活協同組合	京都橘学園生活協同組合
生活協同組合コープ自然派京都	京都経済短期大学生協同組合
生活協同組合生活クラブ京都エル・コープ	京都府庁生活協同組合
京大大学生協同組合	京都医療生活協同組合
同志社生活協同組合	やましろ健康医療生活協同組合
立命館生活協同組合	乙訓医療生活協同組合
龍谷大学生協同組合	全京都勤労者共済生活協同組合
京都府立医科大学府立大学生協同組合	京都市民共済生活協同組合
京都工芸繊維大学生協同組合	京都高齢者生活協同組合くらしコープ
京都教育大学生協同組合	生活協同組合連合会大学生協事業連合

## ■ 8人の代議員・理事から発言がありました。発言要旨を以下に掲載します。

### 1. 京都大学生協同組合 堀川 拓真 代議員 「京大生協のビジョンと健康企画」



京大生協の「組合員の健やかなキャンパスライフを支えます」、また「組合員の協同の輪を広げます」といったビジョンを達成するために、京大生協学生委員会では、大学の健康管理部門の協力のもと、昨年10月～11月の4日間にかけて「ばれっと 秋の点

検祭り」という企画を考案・実施した。これは、2017年度開催した「萬屋 ばれっと」の継続企画で具体的には、自転車・パソコン・メガネの点検・クリーニングを実施する企画。これらの物品は、キャンパスの敷地が広く、BYOD(\*)が提唱されている京都大学において、組合員がキャンパスライフを送るために欠かせないも

ので、この企画で点検することで、より健やかなキャンパスライフを支えることに繋がる。私が中心となって関わったメガネの点検については、京都医療生協に物品の貸出や作成したパンフレットの監修、当日の企画運営などにおいて、多大な協力をいただいた。その甲斐もあり、昨年度よりも来場者が増加し、より多くの組合員の健康増進に繋げる一歩とすることができた。この企画を通して、参加して頂いた組合員には特に、自分たちが京大生協の一員である、また地域の一員であるということを感じていただくと考えている。この企画を中心に、今後も京大生協のビジョンを達成するとともに、地域との連携を深めながら組合員の生活も支えられればと思っている。

\* BYOD: Bring Your Own Device 自分自身のデバイス (パソコン) を持ち歩く

### 2. 京都府庁生活協同組合 中村 知彦 代議員 「府庁生協の事業活動と課題」



1972年から活動しているが、昨今非常に経営が厳しくなっている。唯一の生協食堂がある府庁の敷地内から、教育庁庁舎が建て替えのため2021年度まで下京区に移転し、敷地内利用者約2000人の1割を占める約200人の利用がなくなり、食堂、店舗の供給に大きな影響を与えている。ここ数年、府庁生協のほぼすべての事業で利用者減、供給高の減少で赤字決算が

続く中、人件費を始めとする経費削減で2015年度よりかろうじて黒字となっているが、まさにこの1年が正

念場と言える。この間、保険やカーリース、カード事業など新たな提携、事業の拡大などに努めているが、まだ目立った前進はなく、組合員の利用をどうやって増やしていくかが引き続き最大の課題である。2019年度総代会後の理事の懇談の場では、府内南北に広がる職場・職員の地域とのつながりを生かした特産物の店舗販売を、などの案も出ているが具体化はこれからである。設備老朽化、店舗のない府内郡部職場の組合員へのサービス提供も課題であり、現状ではオンラインショッピングや保険等限られたものとなっている。こうした中で新規採用職員の加入率はここ2、3年7割から8割と順調で新たな層の結集、供給拡大をどう図っていくかも課題である。

### 3. 乙訓医療生活協同組合 冨家 禎子 代議員 「事業所からはなれた地域での医療生協組合員活動(長岡京支部)」



向日市を中心に医療・介護事業を運営している。長岡京支部は約850人の組合員で長岡京市の人口約8万人中、組合員比率は1.06%である。認知度は低く、事業や組合員活動を対外的に「見せる化」するために、「声かけあって健やかに」「地域まるごと元気、私たちの町」というスロー

ガンをかかげた。組合員にアンケートを昨年秋に実施したところ「身近に事業所があってほしい、それなら活用したい」という声が多かった。17年より医療・介護に関する講演会を開催。他団体(年金者組合)と共

催、長岡京市と社会福祉協議会に後援をもらい、組合員以外にも参加を呼びかけた結果、2017年2月「家族に介護が必要になった時」では約140人、2018年2月「認知症の理解と予防」には約230人、2019年3月「住み慣れた地域で最期まで自分らしく生きる」約130人と多くの参加があった。ほかにも長岡京市が呼びかけた市民企画講座に企画を持ち込み、認知症予防の「脳いきいき教室」を4回開催。のべ56人が参加され、地域の人びとに乙訓医療生協の活動を広げ、組合員増加にもつながった。また、購買生協との連携で毎月15日に店舗に設けた相談コーナーで無料健康チェックをおこなっている。現在、長岡支部に念願の拠点をつくるため、物件をさがしている。看板をあげて事業を展開したという報告を来年ここで発表できることが願いである。

#### 4. 京都市民共済生活協同組合 岡田 照雄 専務理事 「相次ぐ自然災害への対応」



平成は、自然災害が相次いだ。平成7年の阪神淡路大震災では兵庫県を中心に甚大な被害が発生したが、地震保険の加入率が非常に低く、公的補償を望む声が殺到し、コープこうべが中心になって全国の生協で2,400万の署名を集め、国を動かした結果、被災者生活再建支援法(\*)が誕生。平成最後の平成30年

は、7月西日本豪雨をもたらした台風7号をはじめ逆走台風の台風12号、大阪北部地震直後にも台風が近畿地方に相次いで来襲した。7月西日本豪雨では中国地方を中心に甚大な被害があり、保険に関して支払件数は55,320件、支払保険金1,950億円に達した。9月4日の台風21号では、昭和36年の第二室戸台風と同規

模の記録的な暴風により、近畿地方に甚大な被害が生じ、共済関連を除いた支払保険金は1兆円を超えるなど自然災害が相次いだ年となった。また私ども市民共済においても支払件数は過去平均の約80倍近くの2千件に達したが、一昨年の台風21号で得られた教訓をもとにマニュアル化を進めたことが功を奏し、現在98%支払完了できるなど適正かつ迅速に対応できたと考えている。今後も地球温暖化による気象災害が予想されることから、自然災害への基本保障の見直しや業務の更なるマニュアル化などを進め、迅速に公平かつ適正な支払いに努めていく。平成の「平」と令和の「和」をとり、戦争と自然災害のない「平」・「和」が永遠に続くことを願っている。

\*被災者生活再建支援法：自然災害によりその生活基盤に著しい被害を受けた者に対し、都道府県が相互扶助の観点から拠出した基金を活用して被災者生活再建支援金を支給することにより、その生活の再建を支援し、もって住民の生活の安定と被災地の速やかな復興に資することを目的として平成10年に制定

#### 5. 京都高齢者生活協同組合くらしコープ 水口 武夫代議員 「1年の振り返りと今年の目標」



2年前この場で発言した「共同墓」のことで「墓友」は47人になり、物故者は7人になった。マスコミにも取り上げられるようになり少しずつ輪が広がっている。京都高齢者生協くらしコープは、府連の会員の中ではもっとも後発で、2014年に生協法人として認可され5周年

になった。生協になる前に12年の活動があるので、創立17周年になる。4月21日ささやかにお祝いをした。日本労働者協同組合連合会制作「workers 被災地に起つ」の上映会と、京大大学生協理事長で京都大学教授の若林靖永先生より「集いの館を作ろう」というお話があった。18年度をふりかえって一番大変だったことは、人材不足。登録ヘルパーがみつからずあらゆる方法で募集しても来ない。さいごは人材紹介会社を使っ

て来ていただいていたが、最近はそのからも紹介がなくなっている。一時は、デイサービスと訪問介護もやめようかと考えるほど深刻だった。今は少し落ち着いたが、それでも訪問介護は綱渡り状態。原因の一つは、国の介護保険制度が貧弱ということである。今の状況では我々のような零細事業者は立ち行かなくなると思う。もう一つの事業である「生活支援事業」いわゆる便利屋も苦戦。高齢者の生活を丸ごと支えたい、そのための事業。介護保険の足りない部分を支える事業だが、国の制度ではないので支援が無い。ここも人手不足でワーカーがやめると補充がなかなかできない。今年の目標はいわゆる「終活」の一環として、よろず相談事業を本格的にスタートしたい。お墓やお葬式、相続や遺言、後見人、死後事務委任、見守りなどが、特に法人として「任意後見人」を引き受ける準備をしている。高齢者生協という名前だが、高齢者でなくとも加入できるので、ぜひ組合員になっていただきたい。よろしくお願ひします。

#### 6. 京都生活協同組合 林 美和 代議員 「エシカル消費を広げるとりくみ」



京都生協では「誰か笑顔につながるお買い物」と表現し、エシカル消費を広げるとりくみを進めてきた。コープの衣料用洗剤「セフターシリーズ」は、環境に配慮した洗剤として1969年に誕生。開発か

ら50年が経過し、現在はさらにRSPO認証のパーム油への切り替えが進んでいる。RSPOは持続可能なパーム油の調達を目的とした非営利組織による認証で、森林環境はもちろん、働く人にも配慮した栽培基準が守られたパーム油を使用する商品だけに表示できる。あわせて、1品につき0.5円が環境団体WWFジャパンの「ボルネオ島森林保全プロジェクト」に寄付され、パーム油原料のアブラヤシを栽培するインド

ネシアの小規模農園を支援する商品である。SDGs（持続可能な開発目標）のアイコン 12「つくる責任 つかう責任」と関わり、持続可能な社会への理解を広げることにもつながっている。2018 年度のとりくみは、総代会議やさまざまな参加を広げる活動、大学生協の取組みにも参加して、コープのエシカル商品の学習会を継続してきた。エシカル消費への共感を知って広げるきっかけづくりとなっている。事業では、宅配商品カタログでのエシカルマークの表

示、店舗でのエシカル商品コーナーの設置など、エシカル商品が選びやすくなる売場づくりを進めてきた。また、広報紙でも、コープのエシカルチョコやセフターを特集し、ホームページでも店舗特集ページで紹介。結果、エシカル商品の利用額は、2017 年度比で 120%に伸長した。これからも、消費行動をより良い選択に近づけていこうという想いを大切に、会員生協のみなさんとも協力して、エシカル消費を広げるとりくみをすすめていきたい。

## 7. 生活協同組合生活クラブ京都エル・コープ 奥野 正登 代議員 「2018 年度の活動を振り返って」



昨年はテレビ番組で生活クラブがとりあげられ、その反響は大きく、組合員数を大きく伸ばすことができた。生活クラブは創立 50 周年、京都エル・コープは 25 周年。組合員といっしょに活動を通じて大きな成果を分かち合った 1 年であった。昨年度を振り返って紹介したいのは利用結集活動でテーマ材は牛乳。「一人 1 本アップ」

を目標として利用結集に取り組んだ。組合員が約 6,000 人なので 6,000 本アップの目標だったが 13,400 本と大きく目標を超えることができた。自前の牛乳工場を持

っていること、酪農家と直接提携していること、NON-GM トウモロコシを与えていること、良質な原乳を使用していること、72 度 15 秒のパスチャライズ殺菌であることが大きな特徴である。組合員にアンケートを実施したり、長野県の提携農家に産直訪問をおこない、秋の牛乳フェスタにつなげた。酪農家の思いも聞いた。酪農においても生産者の高齢化、後継者不足が深刻。牛乳を飲みつづけることの意味を考えながら目標達成につながった。生活クラブのテーマ=FEC。F（食べ物）E（エネルギー）C（ケア地域福祉）において自分たちでできることをやり続ける。自分たちの電力会社も作りたいたいと思っている。みなさまと協働できることはぜひいっしょに取り組んでいきたい。

## 8. 生活協同組合コープ自然派京都 今田 晴美 代議員 「食の安全と国産オーガニックを広げるために」



2018 年度コープ自然派共通の食育活動のテーマであった「国産オーガニックを拡げよう」を基本に、食と環境、暮らしとつながり、未来と平和というビジョンを中心にそれぞれのグループで活動をした。9 月 1 日に総代研修として、野菜セットの生産者である三重県の谷農園を見学。畑に実際に行き説明を

聞き、夏レタスの収穫体験をした。ネオニコチノイド系の農薬などの問題や地域の環境保全の大切さ、堆肥のことや無農薬で育てるための工夫などたくさんの事を学んだ。10 月 23 日には、淡路島よりマクロビオティック講師の煙山昭子先生をお招きし、「食べ物によ

て腸内環境を整えて健康になるには？」という講演会を開催。11 月 18 日には、「お野菜食堂 OPEN」というイベントを開催。マクロビオティック仕様で調理し試食。メニューには「ま・ご・は・や・さ・し・い」の豆、胡麻、わかめやひじき、野菜、魚、椎茸、芋が入り、日本の伝統食の味噌や甘酒も使用。ほかにも「コウノトリを育むお米」の産地、兵庫県豊岡市に行き、稲刈りや田んぼの生き物調査をおこなった。コウノトリを呼ぶために無農薬栽培米に転換している農家がどんどん増えていることを実感した。また、やさか共同農場の方を招き、国産オーガニック材料（無農薬の大豆や麴、にがりを残した塩など）で味噌造りをした。他にも、種子法廃止や遺伝子組換え食品の問題を考える上映会や講演会、コープ自然派で独自に継続している食品の放射性物質検査についての学習会をおこなった。

### ■高取淳専務理事がまとめをおこないました。

本日は代議員・理事から力強いご発言をお聞きして、改めて、京都の生協があらゆる分野や場面で、くらし・地域のお役にたっていることがわかった。今年度についても会員生協のみなさんや、地域・関係団体と連携して、組合員の願いである「安心してらせる社

会の実現」という共通の目標にむかって邁進できると実感した。これからも京都の生協が前進し続けられるよう、京都府生協連もしっかり役割を果たしていきたい。